

ホタテガイ養殖管理情報

青森県
東青地方水産事務所
下北地方水産事務所
水産振興課
青森市水産振興センター

稚貝の分散作業を進めましょう。新貝は20℃を下回ってから作業しましょう。

1 海況

10月12日時点の陸奥湾の中層(10~15m層)の**日平均水温は21℃以下になっています**(図1)。詳しくは、陸奥湾海況情報や海ナビ@あおもり(下記URL、QRコード)をご覧ください。

2 稚貝の状況について

9月27日~10月9日に湾内8地点で中段1段の**未分散稚貝**の育成状況を調査しました(表1)。

稚貝の平均殻長は西湾で17.2mmと平成12年~令和3年の高水温年を除く平均値(平年値)20.1mmよりやや小さく、東湾で18.2mmと平年値19.4mmとほぼ同じとなっています。また、へい死率は西湾で3.7%と平年値3.2%よりやや高く、東湾で0%と平年値4.7%よりかなり低い値となっています。

なお、1段当りの収容枚数が200~300枚台と多い地点が見られます。

3 稚貝分散作業時の注意点

- 現在の水温は、**稚貝が成長する23℃以下**になっています。
- **分散が遅れると、稚貝の成長悪化や、異常貝増加によるへい死につながる**ので、**早めに作業を進めてください**。
- **収容枚数が多い場合や新貝と成貝向けの稚貝分散は10月末までに、収容枚数が少ない場合や半成貝向けの稚貝分散は遅くとも11月末までに終わらせる**ようにしましょう。
- 1段当りの**収容枚数が多いと成長悪化やへい死につながる**ので、養殖方法に応じた**適正な収容枚数(1段当り10~20枚)**を心がけて作業してください。
- **稚貝は乾燥にも弱い**ので、手早く作業を行いましょう。
- 潮流によるぶつかり合いで、外套膜(ヒモ)が傷ついてへい死しないように、**ネットにはオモリをつけましょう**。また、潮流が速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、**施設を浮かせずぎないように**しましょう。

4 新貝の作業の注意点

今年の陸奥湾の水温は平年よりも概ね高めで推移したため(陸奥湾海況情報No.1404~1408)、今後の作業では例年よりも丁寧に扱う必要があります。また、水温が20℃を下回る前に作業を行うと、へい死率や異常貝率が高まる傾向がみられますので、新貝の作業(玉付け・籠替え・掃除)は、**中層の水温が20℃を下回り、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから開始**しましょう。

表1 未分散稚貝の育成状況

調査場所	調査月日	幹縄水深(m)	稚貝採取月日	稚貝採取時の篩の目合(分)	パールネットの目合(分)	錘の有無・種類	生貝数(枚)	死貝数(枚)※	へい死率(%)	異常貝率(%)	サンカクフジツボ付着数(個/稚貝)	平均殻長(mm)
A	10月6日	30	7月28日	2	2	太枠1段	151	11	6.8	0	1.9	20.8
B	10月9日	24	8月8日	2	2	鉛50匁	209	4	1.9	2	0.7	19.1
C	9月30日	25	7月28日	1	1.5	鉛100匁	215	1	0.5	0	1.5	14.7
D	10月5日	22.5	8月25日	1.5	1.5	太枠1段	312	32	9.3	0	1.9	11.4
久栗坂実験漁場	10月6日	30	8月22日	2.3	2	コンクリート2kg	54	0	0	0	1.5	19.8
西湾平均							188	9.6	3.7	0.4	1.5	17.2
E	9月28日	14	7月20日	1.5	1.5	鉛50匁	214	0	0	0	1.6	18.0
F	9月27日	15	8月4日	1.8	1.5	鉛100匁	189	0	0	0	2.4	17.5
川内実験漁場	10月7日	23	8月8日	2	2	コンクリート2kg	93	0	0	0	0.0	19.1
東湾平均							165	0	0	0	1.3	18.2

※成長後の死貝数

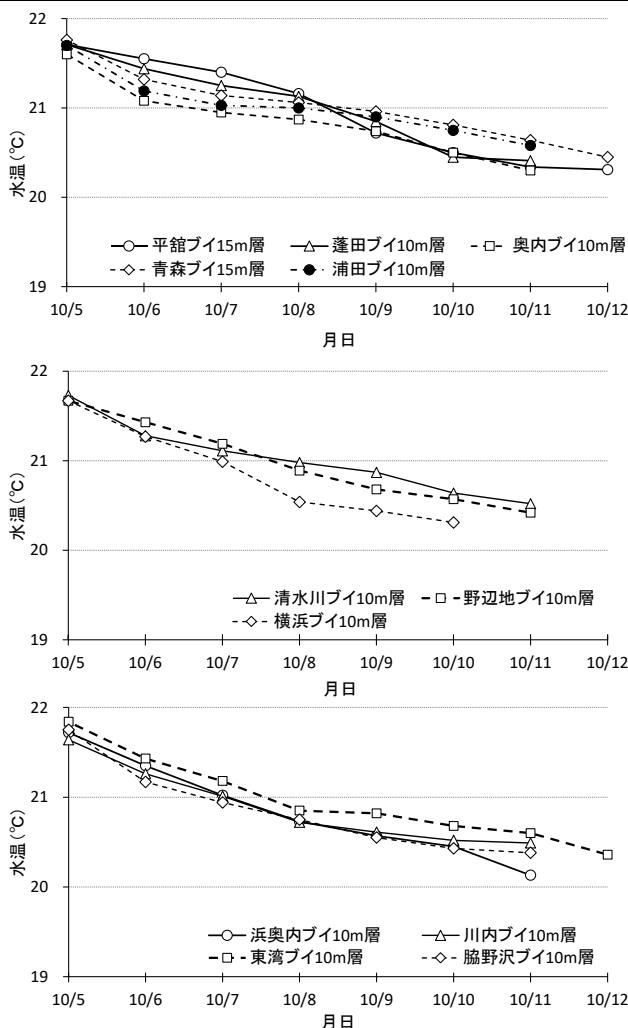


図1 海況自動観測ブイ(15m層)と水温観測ブイ(10m層)での日平均水温の変化

